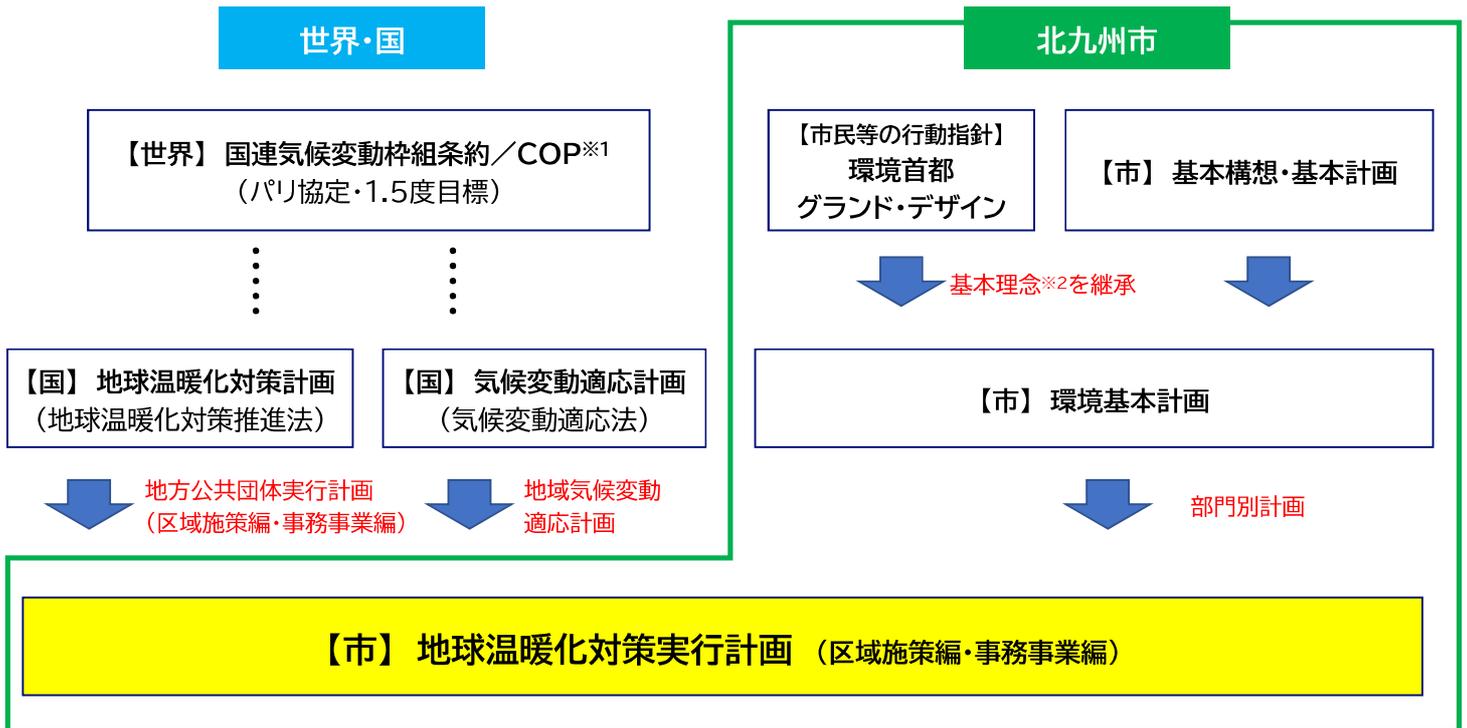


北九州市地球温暖化対策実行計画の改定について

北九州市地球温暖化対策実行計画の概要 (現行計画)

計画の位置づけ



※1:国連気候変動枠組条約締約国会議。全ての条約締約国が参加し、条約の実施に関するレビューや各種決定を行う。

※2:「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ

3

(参考)北九州市環境基本計画【R6.10改定】

基本理念

環境首都グランド・デザインに示されている基本理念を継承
「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ

3つの柱

基本理念を実現するために、環境首都グランド・デザインに示されている3つの柱
「共に生き、共に創る」、「環境で経済を拓く」、「都市の持続可能性を高める」を継承

4つの政策目標とその基本施策

政策目標Ⅰ 脱炭素(カーボンニュートラル)社会の実現

基本施策 (1)エネルギーの脱炭素化

基本施策 (2)イノベーションの推進

基本施策 (3)脱炭素型ライフスタイルの推進

基本施策 (4)ゼロカーボン・ドライブや持続可能な公共交通ネットワーク等の推進

政策目標Ⅱ 循環経済(サーキュラーエコノミー)システムの構築

政策目標Ⅲ 生物多様性の増進と環境保全の推進

政策目標Ⅳ 環境国際ビジネス拠点化の推進

4

現行計画の概要

地球温暖化に対応するため、温室効果ガスの排出の抑制等を行う「緩和策」と、気候変動の影響による被害を回避・軽減する「適応策」を車の両輪とした、総合計画

北九州市が目指す2050年の脱炭素社会

『環境と経済の好循環による脱炭素化を軸に、都市や企業の価値・競争力を高め、快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすい社会』

計画期間

2021年度～2030年度（10年間）

温室効果ガス削減目標

※北九州市の2013年度排出量比

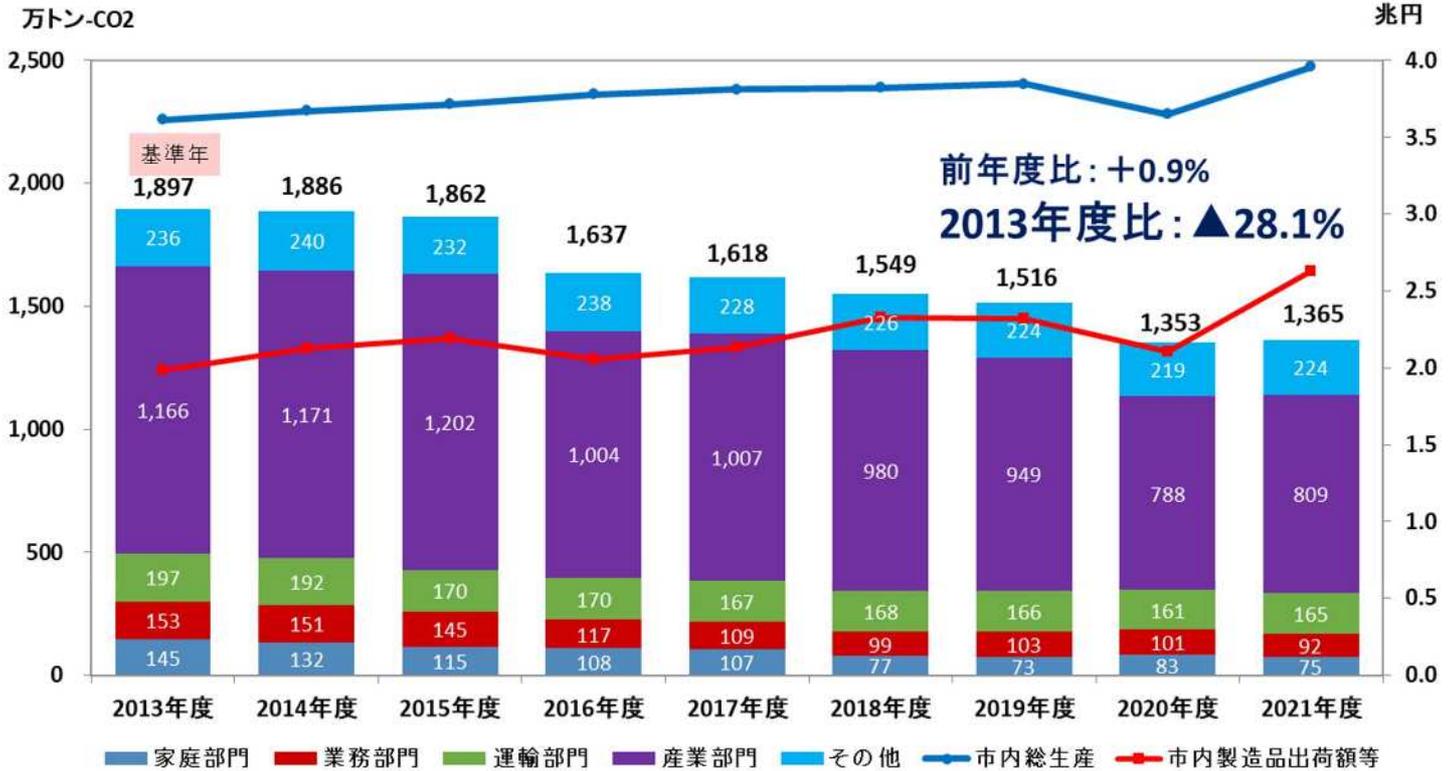
	2030年度	2050年
市域全体 (参考:国 2013年度比)	47%以上 (46%)	実質ゼロ (実質ゼロ)
アジア地域 (CO ₂ 排出削減量(累計))	75%	150%以上
市役所の事務事業 (参考:国の事務事業 2013年度比)	60% (50%)	—

5

現行計画の進捗状況

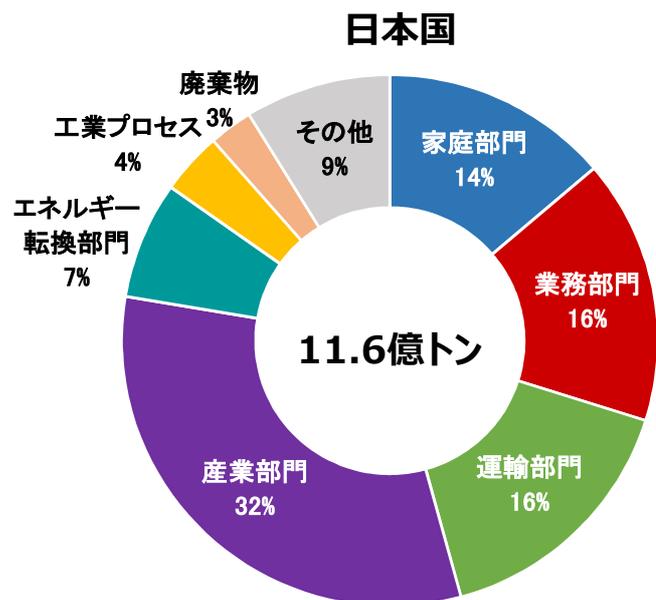
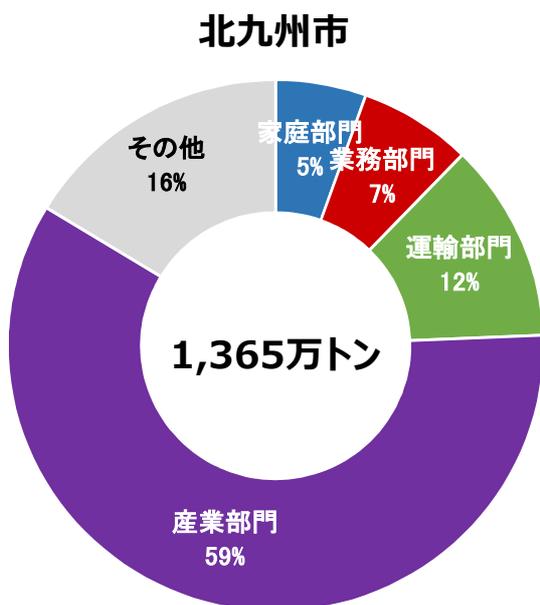
6

北九州市の温室効果ガス排出量の推移



7

北九州市の温室効果ガス排出量の部門別割合（2021年度）



※北九州市の「その他」は、エネルギー転換部門、廃棄物部門、工業プロセス部門、メタン、一酸化二窒素、フロンガスの計

出典) 国立環境研究所HPより

8

北九州市役所業務の温室効果ガス排出量の推移

万トン-CO2



9

主な取組内容①(家庭部門・業務部門・運輸部門)

家庭部門

- ◆市民の脱炭素行動を促す広報・普及啓発
- ◆省エネ家電購入補助キャンペーンの実施
- ◆KitaQ Zero Carbonポータルサイトの活用

業務部門

- ◆中小企業への再エネ・省エネ設備等導入促進
- ◆公共施設(約2,000施設)における再エネ100%電力への順次切替
- ◆脱炭素先行地域の取組として、第三者所有方式を活用した太陽光発電設備等の導入

運輸部門

- ◆電動車の導入促進
- ◆公共交通の利用促進
- ◆充電インフラの普及促進



広報・普及啓発



再エネ導入(太陽光発電パネル)



充電インフラ整備

10

主な取組内容②(産業部門・その他分野・適応策)

産業部門	<ul style="list-style-type: none"> ◆水素拠点の形成(水素拠点化推進協議会) ◆風力発電関連産業の総合拠点形成 ◆GXの推進(北九州GX推進コンソーシアム)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◆【廃棄物】プラスチック資源の一括回収 ◆【森林等吸収源】市民・NPO・行政などによる市内各地での植樹 ◆【国際貢献】市内企業等の環境国際ビジネス展開支援
適応策※	<ul style="list-style-type: none"> ◆【災害】豪雨への効果的な浸水対策(重点整備地区における雨水整備) ◆【健康】熱中症予防対策(健康アプリを活用した注意喚起、改正気候変動適応法への対応) ◆【自然生態系】生物の生息環境の調査(曾根干潟、響灘ビオトープ等)

※現在および将来の気候変動の影響による被害を回避・軽減するための対策



水素拠点化推進協議会



洋上風力発電



プラ製品一括回収

<参考> 進行管理指標(フォローアップ項目) ※詳細は、別添資料参照

- 進行管理指標は、削減目標の設定に当たって前提となった条件を中心に、効果的な進行管理を行うため定めたものであり、温室効果ガス排出量の状況や各施策の取組み状況とともに、同指標値の推移を把握して、総合的な評価・検証を行うもの。

1 全体に関わるもの	4 産業部門・エネルギー部門
1-1 CO ₂ 総排出量、部門別CO ₂ 排出量 1-2 エネルギー消費量、部門別エネルギー消費量 1-3 部門別の活動量(世帯数、製造品出荷額等) 1-4 部門別の活動量当たりCO ₂ 、エネルギー消費量 1-5 電源構成、電力の排出係数(電気事業者)	4-1 再エネ(太陽光、風力等)の導入量 4-2 省エネ対策の取組み状況、取組み事例 4-3 電化率(エネルギー消費量に占める電力の割合)
2 家庭部門・業務部門	5 その他の部門(廃棄物)
2-1 LEDの普及率 2-2 高効率給湯器の普及台数 2-3 二重サッシ、複層ガラスの普及率(家庭) 2-4 省エネ建築物の普及率 2-5 「CASBEE北九州」届出数(業務) 2-6 ZEH、ZEBの普及率 2-7 電化率(エネルギー消費量に占める電力の割合)	5-1 プラスチックごみの分別協力率、焼却量 5-2 食品ロス量
3 運輸部門	6 森林等による吸収
3-1 次世代自動車(HV,PHV,EV,FCV)の普及台数 3-2 充電設備、水素ステーションの普及状況 3-3 人口10万人/日あたりの公共交通利用者数 3-4 ノーマイカーデー、エコドライブ参加企業数	6-1 植樹本数 6-2 森林面積
	7 環境活動・環境教育
	7-1 エコライフステージ参加者数、参加団体数 7-2 環境学習施設来訪者数 7-3 環境首都検定受検者数
	8 国際貢献
	8-1 脱炭素化プロジェクト実施件数(累計) 8-2 戦略的環境国際協力の実施件数(累計) 8-3 研修員の受入れ数(延べ数)

科学的知見・国内外の動向

近年の気候変動

<世界の平均気温>

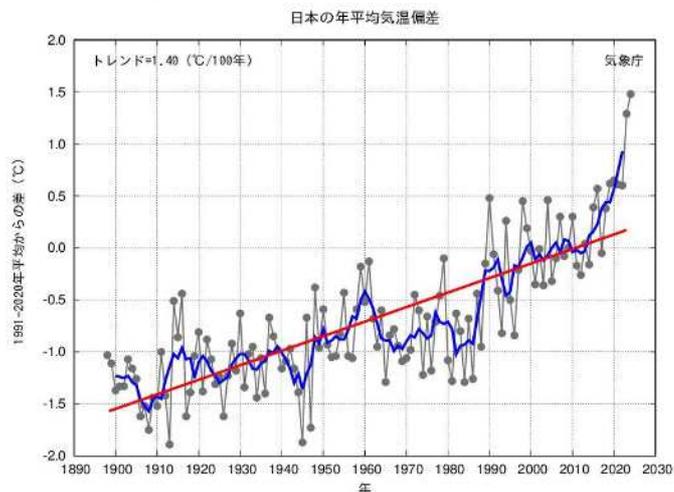
世界気象機関（WMO）によると、2024年の世界の平均気温は、産業革命前の平均より1.55℃上昇し、観測史上最高となった。

<日本の平均気温>

2024年の年平均気温は統計開始以降で最高値となり、平均気温は長期的には100年あたり1.40℃の割合で上昇している。

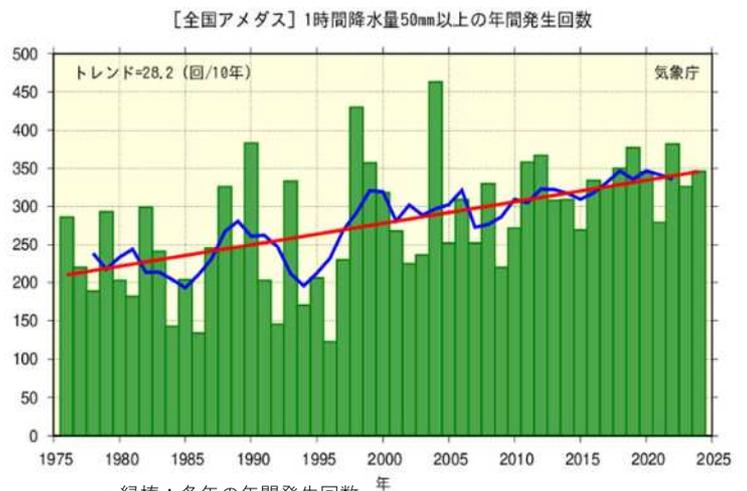
<日本の降水量>

短時間降雨（1時間50mm以上の非常に激しい雨）の年間発生回数は、10年あたり28.2回の割合で増加している。



- ・黒線：各年の平均気温の基準値（1991～2020年の30年平均値）の偏差
- ・青線：偏差の5年移動平均値
- ・赤線：長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）

出典：気象庁HP



- ・緑棒：各年の年間発生回数
- ・青線：5年移動平均値
- ・赤線：長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）

出典：気象庁HP